

二 八郎太郎と八郎瀉

敗走した八郎太郎は、最初、南部の駒岩と偵岳かとおかの二山の間をせきとめ、これに北上川の水をひき入れ、和賀、稗貫、志和の三郡を水没させる湖をつくろうとしたが果たさず、ふたたび鹿角郡に入った。

鹿角一円を眺望して、錦木の三方落ち合いとなる雌神めがみ、雄神おがみの間をせきとめようと計画し、雌神、雄神の間に毛馬内の母屋山もやを置いて鹿角一円を湖底の底に沈めようとした。このことを知った鹿角四二体の神々は、大いに驚ろぎ、阻止のために激しく抵抗した。多勢に不勢、八郎太郎はふたたび流浪する。



田沢湖畔の辰子姫の像

やがて、八郎太郎は、神々の協議のまとまらない虚をついて、今は「溪后坂」きみごさかとなつている周辺に潟をつくり、ここに住んだ。しかし、七座ななくらの神々の移住の願いを容れ、白鼠たちによって堤に穴をあけられてその大洪水に乗って流れ出た彼は、男鹿に潟をつくり、そこへやっと永住することになつ

た。潟誰いうとなく八郎潟というようになつた。

